

長野県埋蔵文化財ニュース

No. 30

1990.3.31

(財)長野県埋蔵文化財センター

長野調査事務所
〒388 長野市篠ノ井布施高田字佃963-4
TEL 0262-93-5926



発掘調査紹介

佐久市聖原遺跡Ⅰ

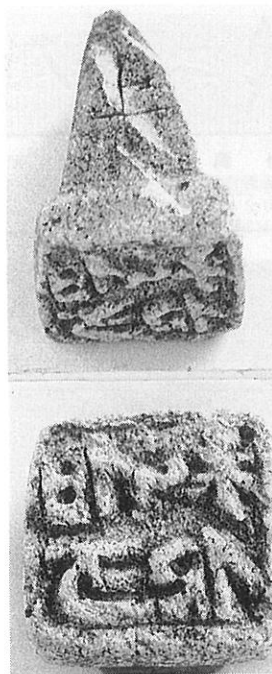
佐久埋蔵文化財調査センター 高村博文

聖原遺跡は、佐久市の北部、浅間南麓末端部の南西に放射状に伸びる田切り地形に挟まれた標高734～742m付近の台地上に位置する。

佐久流通団地造成に伴う調査で対象総面積は約73,000㎡であるが、平成元年度33,000㎡、平成2年度に27,000㎡、平成3年度に13,000㎡と3年度にわたり調査を実施する予定である。平成元年度に調査を実施した33,000㎡内の検出遺構は、古墳時代後期～平安時代の竪穴住

居跡396棟・掘立柱建物跡242棟・粘土坑15基・おとし穴22基・土坑166基・中世以降の区画溝等である。

聖原遺跡は、南方に隣接した上聖端遺跡（昭和63年度調査）の4,700㎡と北方に隣接する県埋文センターの調査予定地（平成2年予定）約10,000㎡を合わせると全体で約88,000㎡の調査面積となり、仮りに、上聖端・聖原遺跡Ⅰと同じ遺構密度とした場合（その可能性が高い）、全調査終了時点で1,000棟以上の竪穴住居跡の



検出が予想できる。

現在、県内で古墳時代～平安時代つまり古代の集落跡の発掘調査例で100棟以上調査された遺跡は、松本地方と佐久地方しかなく、松本地方では、松本市の島立遺跡群で966棟、下神遺跡で224棟、三間沢川左岸遺跡で270棟、塩尻市の吉田川西遺跡で272棟、吉田向井遺跡で100棟、佐久地方では、佐久市の上の城遺跡群で188棟、樋村遺跡で287棟、佐久市・御代田町・小諸市の鋳師屋遺跡群で446棟の8ヶ所の調査例がみられる。

聖原遺跡の調査は、古墳時代後期～平安時代、ことに律令体制下の古代集落として、県下で最大規模の調

査となり、古代集落の成因・構造・変遷・性格および律令体制下における地方の生活を知る上で県内屈指の遺跡となろう。

特筆すべき遺物として石製の私印がある。印を出土した255号住は、北側の支柱穴が壁面につく形態をとるものの、特記すべき住居跡とは考えられず、平安時代前葉の可能性がある。印は縦3.3～3.5cm×横3.4～3.5cmの方形で、高さ6.2cmである。保存状況は縁及び字に欠損部分が多少みられ、接地面は水平にしているとはいいがたく凸凹があり、現在使用している印の使いかたと若干異なるのではないと思われるほどである。また、朱等の付着物は肉眼では観察できなかった。奈良国立文化財研究所の鑑定によると、律令体制下の石製の印は全国的にも珍しく、「伯万私印」つまり伯万呂という有力者の私印であろうとのことである。

以上、調査途中の知見であるが、大規模な調査を実施することが真の埋蔵文化財の保護になるとは考えられないものの、少なくとも調査・研究の進展・成果によって困難と思われる一般集落の保護にも活路を見いだすべきと考えられ、一日も早く開発と保護の調和のとれる接点をみいだす努力をしていく必要があろう。

飯田市 物見塚古墳

飯田市教育委員会 小林 正春

飯田市内には、約500基の古墳が確認されており、長野県の古墳時代後期を代表する地域として概述されて来たが、その実体はいまいであり、発掘調査等により具体的な状況を知る古墳はごくわずかである。また、築造古墳の多さに比して、旧状のまま現在も残されている古墳はその2割にも満たず、埋蔵文化財の保護が一朝一夕でないことを物語っている。

その残り少ない現存古墳の一つとして物見塚古墳があったわけであるが、新飯田市立病院建設用地内にあり、今回の発掘調査後消滅することとなった。

物見塚古墳は、飯田市街地とは松川の谷を間に対峙する鼎名古熊の中段段丘北端の縁部に所在する。調査前の状況等からは、径20m弱の終末期古墳と予想した。

調査の結果、その規模は周溝の外径36mと市内でも屈指の円墳で、内部主体は未盗掘でもあり、時代等についても新知見のいくつかを示してくれた。

築造時期は周溝内等から出土した須恵器により判断

される。樽形甕・小型甕・高坏があり、その製作年代は5世紀中頃と考えられ、本墳築造時期もそれにより判断され、本墳は当地域における古墳築造の隆盛期に先行するものといえる。

また、調査前の状況から、内部主体は盗掘され、墳丘自体もかなり削平されていると推測したが、それは大きく異なる結果となった。内部主体の判断は、調査進展により再々度修正せざるを得ず、当初は横穴式石室を、次に墳頂部に堅穴式石室系の内部主体を考え、墳頂部地表下30cm程で確認した径20～30cmの礫がその





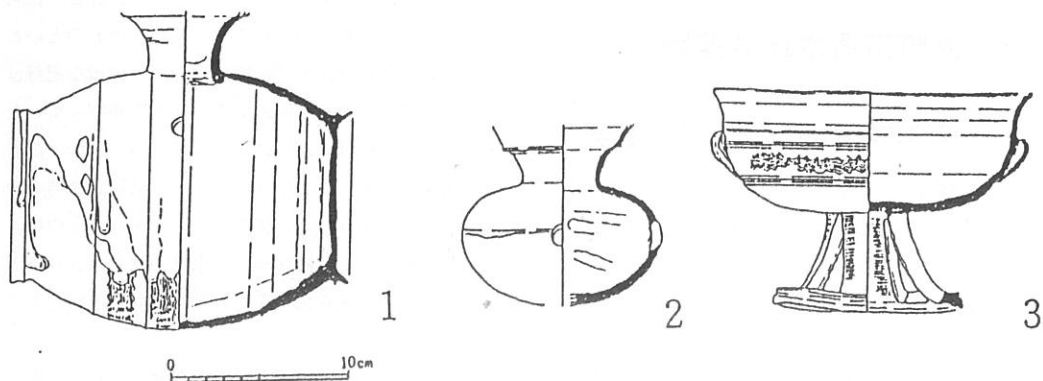
残骸と判断した。しかし、最終的には、墳丘構築状況確認のため土層確認トレンチを調査したところ、現地表下1 m程の墳丘盛土下部に土坑の存在を確認し最終的には長さ8 m、幅2 mの土坑が本古墳の内部主体であることが判明した。

墳丘盛土の状況から、本墳の内部主体は当時の地表面に土坑を掘り、埋葬後、墳丘盛土を成した県内で初見の埋葬・構築法を取ることが判明した。さらに内部主体形は、土坑内に木棺を埋置したものであるが、その調査課程の中で、小口板別造りの割竹形木棺であることを把握した。割竹形木棺については、県内何例か

の古墳でその可能性が指摘されていたが、本墳の特異な埋葬形態により、その存在が具体的に示されたものといえる。

主体部の副葬品は、墳丘規模に比して貧弱で剣・櫛等は該期古墳に通例られるが、鉄鏃・玉類が皆無であり、それからも特異な一端をうかがえる。

また、隣接の松尾地区に集中分布する諸墳とは隔絶された状況ともいえる位置にあり、西接して検出され本墳に先行する方形周溝墓の存在など、これも特異な姿であり、当地域に古墳築造が定着する段階の貴重な諸資料を提供してくれたといえる。



上田市林之郷・八千原遺跡

林之郷遺跡ほか発掘調査団

調査主任 岩佐今朝人

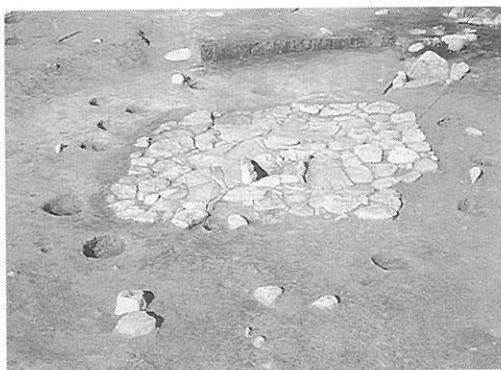
上田市豊殿地区（旧豊里・殿城村）にわたる林之郷遺跡は、ほ場整備事業の施行に伴い林之郷遺跡約3,000㎡、八千原遺跡約7,000㎡、計10,000㎡を対象に、平成元年5月17日より11月2日までの約6カ月間、上田市教育委員会が林之郷遺跡ほか発掘調査団に事業を委託して発掘調査を実施した。

上田市の東方に聳える標高2,062mの烏帽子岳は山裾が西方に長く延び、南流している神川に切られているが、豊殿地区はこの山麓地帯である。遺跡はこの神川の流域に沿って茅御堂、太田、法楽寺、林之郷、八千原等多く群在し、最も広い平坦な第2段丘上に展開しているのである。

林之郷遺跡は、昭和49年の発掘調査で良好な古墳時代の住居跡とこれに伴う遺物を検出した茅御堂遺跡に隣接している。

検出した遺構は弥生時代後期後半の住居跡2棟、古墳時代前期6棟、同中期22棟、掘立柱建物跡4棟とその他、縄文中・後期に属する土坑2基と古墳時代の土坑24基である。この地方の古墳時代は、いまだ不明確のところが多いのが現状であるが、ここに前期・中期の資料が多く検出され、資料の蓄積がされることは、当地方の研究が推進されるものと思う。特に鬼高期の23号住居跡は、火災にあい焼失して廃絶したものと思われる、その住居内セットには注目すべきものがある。

八千原遺跡は、林之郷遺跡の北東約100m隔てたところにあり、A区（約2,000㎡）、B区（約4,000㎡）、C区（約1,000㎡）、と区分して調査した。この遺跡は



縄文時代の遺構、遺物以外検出されず、まさに縄文遺跡である。中期初頭より後期後葉（加曾利B2期）まで継続し発展している。中期後葉から始まる敷石住居は、発見された遺構の過半数を占め遺跡いっばいに拡がって、質量ともに圧巻でこの遺跡の白眉ともいえよう。住居跡はA区32棟、B区42棟、C区21棟で、その他配石、土坑、竪穴等多数を数える。遺物は多く、土器、石器、骨角等、コンテナ300箱を越える勢いである。

敷石住居跡については、完全に石を敷き詰めた住居は10基にもみえないが、大部分は石が抜き取られ、切り合ったり、重複したり総数40基以上に達する。プランは柄鏡形を呈するものが多いが、大は径8m余りから、小は2mにも足りない小形のものもありさまざまである。敷石の用材は鉄平石であるが、要所には河原石の巨石を積み重ねて併用している。

上田市において縄文時代の遺跡は多く知られているが、今まで発掘調査の例は少なく、今回のこのように大きな調査ができたことは、画期的なことであった。今まで発見されなかった完形あるいは半完形の土器が多くみられ、器種も深鉢、浅鉢を初め土偶、吊り手土器等多数検出されたことは、今後縄文時代の研究に役立てることができるものと、おおいに期待できるのである。

大町市清水氏居館跡

大町市教育委員会 島田 哲男

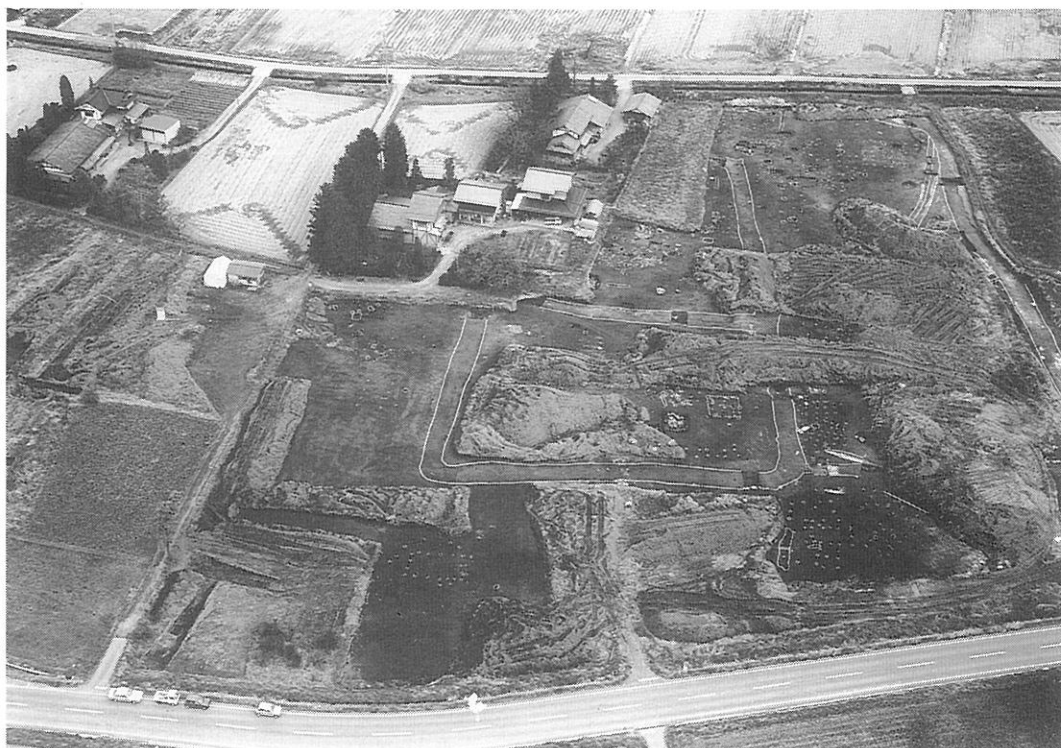
清水氏居館跡は、松本平北端にある「北の安曇野」と呼ばれる大町市の南側、大字常盤清水にある。標高680m、乳川扇状地上の河岸段丘下に立地する。

調査は、1989年9月下旬から11月中旬まで約7,000㎡を調査した。

本居館は、鎌倉～室町時代において大北地方を中心

に南安曇北部まで勢力をもっていたといわれる「仁科氏」の被官だったといわれる「清水氏」のものといわれている。江戸時代の『信府統記』には詳細な記録はないものの、北方約1kmにある、清水氏が守っていたといわれる大崎城の記述の中に「城主知レズ一説昔清水何某トカヤ云フ人アリシト云ヘドモ何レノ時ニカ詳ナラス」とあり、この居館付近の小字地名が内堀といわれていたこと、隣接地に清水某の墓と称される五輪塔があることから清水氏の居館跡であると伝えられていた。

調査の結果約100m四方の外堀が検出され、北側の



外堀（宅地であり未堀で推定。居館範囲の奥部にあたる。）に接して50m四方の内堀が回り、主郭が造られていた。外堀と内堀は、堀によってつながり、その堀により三つの郭に分けられ、外堀外にも建物跡が検出され、西～北側にかけて外郭をなした大規模な居館であることがわかった。

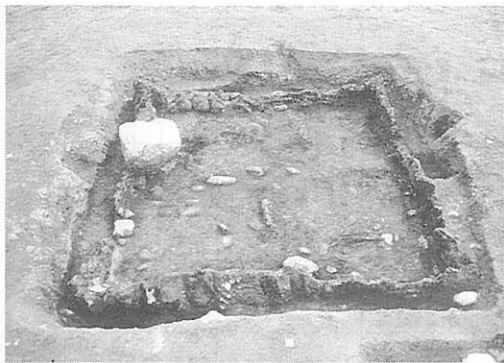
遺構としては、平地式住居跡（ローム層を山から運び敷きつめ床とし、柱穴が並ぶ住居跡）3軒、竪穴式住居跡6軒（蔵跡含む）、掘立建物跡約10棟、礎石をもつ建物跡1軒、竪穴30基、土坑20基、火葬墓1基等が検出された。礎石をもつ建物跡は主郭に検出された。特に注目されるのは、2号住居跡で、竪穴を掘った後に、壁との間に約30m離して礫を並べ、その上に木組

をし、板材をめぐらせたもので床の一部にはつぶれてしまっていたものの、列石と列石に渡すように丸太材を置きその上に板を敷き床としていたものである。埋土中には多量の壁土にしたと思われる土と砂が混じった土塊が検出し、土壁をもっていたことが想定される。また、この層と炭化材層の間からは、約三合の炭化米が検出され、土蔵的な性格を思わせた。また列石上の木組はしっかりとしたもので、柄をつくり木を組み合わせた部分も見られ、土蔵の初源ともいえるものであろう。

本居館は、遺物から見て14世紀後半から17世紀初頭にかけて営まれたものと考えられ、今後の検討によりそれぞれの郭の性格等もわかってくるであろう。

（財）長野県埋蔵文化財センター 松塩筑調査事務所の閉所のお知らせ

平成2年3月16日、松塩筑調査事務所の閉所式が、樋口理事長他埋蔵文化財センター役職員、県教育委員会、関係市町村教育委員会、日本道路公団等関係者が出席し行なわれました。同調査事務所は、昭和58年12月に、開設され中央道長野線に關係する42遺跡の発掘調査を実施し、この間10冊、約5,500頁の報告書を刊行しました。



平成元年度市町村別

No.	遺跡名	所在地	期間	目的・原因	主体者	担当者
1	関口A・B 柏原遺跡群	小諸市甲字東道下関口・下柏原	元. 4.17 元. 9.14	ほ場整備	市教委	花岡 弘
2	梶垣外	上郷町黒田1656-1	元. 4.12 元. 4.20	宅地	町教委	山下 誠一
3	大村	松本市南浅間482-2	元. 5. 1 元. 9. 1	宅地	市教委	直井 雅尚 三村 竜一
4	薄町	松本市里山辺	元. 8.19 元.12.13	ほ場整備	市教委	直井 雅尚
5	大祝屋敷	諏訪市中洲字今橋1604-31581	元.10.27	詳細分布	市教委	宮坂 光昭
6	一本榎	茅野市塚原1-4204-1	元. 9. 1 元.10. 4	宅地	市教委	小林 深志
7	清水	諏訪市豊田字平林3631-4ほか	元. 8.22 元. 8.26	宅地	市教委	宮坂 光昭
8	生妻	松本市中山	元.10.12 元.12.13	ほ場整備	市教委	高桑 俊雄 熊谷 康治
9	丸山	箕輪町中箕輪1098-5	元. 5.19 元. 7.30	道路	町教委	柴 登己夫
10	田草川尻	飯山市静間字四本木217-1	元.11.16 元.11.24	店舗建設	市教委	望月 静雄
11	岡峰	飯山市常郷字岡峰	元. 9. 5 元.11.10	住宅団地	市教委	高橋 桂
12	古城	大町市社6756-1ほか	元.11. 6 元.12.25	送電線新設	市教委	篠崎建一郎
13	神送り	上伊那郡辰野町平出2099-6	元.11.13 元.12.11	道路	町教委	福島 永
14	新屋敷	飯田市座光寺4734ほか	元. 5.10 元.10.12	工場	市教委	小林 正春
15	宮垣外 高屋	上郷町別府1678-1ほか	2. 1. 8 2. 1.12	道路拡幅	町教委	山下 誠一
16	芝崎	上郷町飯沼23901ほか	元.12.15 2. 1.10	道路	町教委	山下 誠一
17	南中島	松本市中山	元. 9.21 2. 1. 9	ほ場整備	市教委	熊谷 康治 新谷 和孝
18	藪上	上郷町飯沼403-1ほか	元.10. 5 2. 1.11	ほ場整備	町教委	山下 誠一
19	篠ノ井遺跡群	長野市篠ノ井塩崎5245ほか	元. 6.12 2. 1.10	ほ場整備	市教委	矢口 忠良
20	荒神山 おんまわし	辰野町樋口2161ほか	元. 6.15 元.12.28	ほ場整備	町教委	友野 良一
21	窪畑	辰野町樋口	元. 6.15 元.10.25	ほ場整備	町教委	友野 良一
22	表山窯跡	中野市立ヶ花736-1	元.10. 9 2. 1.14	道路改良	市教委	金井 汲次
23	新野	中野市新野字宮下481ほか	元. 9.25 2. 1.14	市道改良	市教委	田川 幸生
24	島崎	伊那市手良沢岡1377	元.11.20 元.12.25	ほ場整備	町教委	友野 良一
25	針塚古墳	松本市里山辺3174-イ・ロ	元. 6.26 元.12.19	ほ場整備	市教委	熊谷 康治 ほか

発掘調査一覧 (その3)

調 査 の 概 要			
時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	所 見
古墳 奈良～中世	住居60、溝9、土坑28、掘 立柱建物72	土器片コンテナ50、石器、銅製品、 中世人骨	
中世・近世	土坑2、ピット56	陶器片ほか	集落跡からはずれる。
奈良・平安	住居25、建物1、土坑・ピ ット70、溝10	土師器・須恵器、灰釉・緑釉コンテ ナ40、瓦10ほか	
平安・中近世	住居10、土坑61、建物基段 (近)	土師器、灰釉・緑釉、陶磁器、古銭、 刀子ほか	第1地点平安、第2地点中近世、 古墳跡
平安・中近世		土師質土器片、須恵器	
縄文・弥生 中・近世	住居1(弥)、掘立柱建物 (中)2、埋設土器1	縄文早期末～中期、弥生後期土器片 ほか	
縄文・弥生	小竪穴3	縄文・弥生土器片1箱	
縄文～中世	住居8(縄文5、弥生1、 不明1)、土坑200	縄文土器15箱、弥生土器1箱ほか古 代中世土器	地下水位高い。
縄文～平安	住居(縄文16・平安3)、掘 立柱建物1(平安)	土器50箱、石器5箱、鉄器3点	
弥生・古墳	な し	弥生・古墳土器3箱	遺跡中心はずれる。
縄文・平安	住居5(平安)、溝4、土坑 墓4(平安)	縄文土器100、平安土器30箱	
弥生～平安	住居22(弥)、土坑2、古墳 周溝1、土塁	土師器・陶器15ほか	
平 安	住居1	土師器片1箱	
縄文～平安	住居67、掘立柱建物23、溝 7、柱穴列1	土器・石器・金属器180箱	弥生・古墳時代竪穴密集、群衙 の区画施設か
弥生・古墳 近世	平安土器片10、近世・近代 陶器片80ほか		
弥生・古墳 平安・近世	溝1、土坑1	弥生石器5、古墳土器片100、平安土 器片30ほか	
縄 文	住居33(中期)、建物2(中) 土坑120(早・中期)	縄文土器(早～中期)60箱	
古 墳	住居2(古墳前)	弥生打製石器20、土師器、中近世土 器	
弥生・古墳	住居54(弥生～平安)、溝 14、土坑24、水田跡	弥生～平安土器100、人骨3体分	
弥生・平安	住居8(弥生)、方形周溝墓 10	弥生土器20、土師器10、須恵器10片、 鉄器1	
縄文・弥生 平安	住居6(縄文2・平安4)		
平 安	半地下式窯2、溝1、土坑2	須恵器(平安初期)10箱	
先土器・縄文 弥生・中世	住居2(縄文・古墳)、柱 穴・ピット317、礎石	縄文～中近世土器多量、石斧30、 勾玉1ほか	
縄 文	住居13、土坑17	縄文中期土器片48箱、石器22点	
古 墳	竪穴石室	内行八花文鏡1、鉄斧1、鉄鏃13、 刀子1、ガラス小玉20、鉸具1、紡 錘車1、土師器14、須恵器6ほか	古墳時代中期の積石塚古墳

(財)長野県埋蔵文化財センター日記抄
(12月～3月)

元.12.26 松原遺跡等出土人骨の慰霊祭、篠ノ井遺跡群2-3、3地区本年度分調査終了(長)、佐久市教委竹原学氏下茂内遺跡出土土器指導(佐)

27 川田条里遺跡C地区、小滝遺跡(本年度分)調査終了(長)

2. 1. 9 平成元年度契約変更会議(公団・文化課・センター(於東京)(佐))

11 整作作業開始(作業員20名)(長)

12 篠ノ井遺跡群①・②-1地区本年度分調査終了(長)

13 百瀬調査研究員真田町教委へ派遣・指導(佐)

16 公団との打合せ(公団・文化課・センター)(長)

17 朝日グラフ取材(長)

19 上条県出納長川田・松原遺跡視察(長)

23 県立歴史館(仮称)展示等研究会(於県庁)

24 日本考古学研究所大淵氏来所(長)

25 笹沢調査部長上山田町教委へ派遣指導(長)

26 毎日新聞取材(長)

30 河西調査研究員奈文研研修(～2月2日)(長)

31 平成2年度埋文調査打合せ会議(公団・文化課・センター)(佐)、鶴萩七尋岩陰遺跡供養祭へ所長出席(長)

2. 1 若穂工事区内埋文打合せ(公団・文化課・センター)(長)

2 筑波大学山田昌久氏木製農耕具について招へい指導、高山市教委田中彰氏来所(長)

3 平成2年度調査計画について打合せ(文化課・センター)(長)

6 毎日新聞取材(長)

7 読売・松代新聞取材(長)、信大医学部西沢寿晃氏大星尻・栗毛坂遺跡出土人骨鑑定(佐)

8 NHK取材、来年度調査計画につき打合せ(文化課・センター)(長)

9 沼津市教委松下氏来所(長)、興水調査研究員真田町教委へ派遣・指導(佐)

2. 2. 14 辰野町教委赤羽氏来所(長)、松本市内分遺物長野調査事務所へ運搬(松)、2年度調査計画につき打合せ(センター・佐久市)白居・青木調査研究員奈文研研修(～23日)(佐)

15 松原遺跡西区本年度分調査終了、2年度調査計画につき打合せ(文化課・センター)、信毎取材(長)

16 NHK取材、檀原考古学研究所勝部調査部長ほか1名来所、県史刊行会編さん会議2名出席(長)

18 発掘調査出土品展「信濃路を掘る」(於市立博物館、～25日、参集者延1,566名)

19 教育研修(於篠ノ井西中・小学校)(長)

20 NBS取材(長)

22 センター部長・部課長会議(於篠ノ井)

23 長野県遺跡調査指導委員会(於長野市)

26 海外研修旅行隊出発(～3月7日、於中華人民共和国)、信毎取材(長)

27 全国遺跡データベース研究会(於奈良国立文化財研究所、宮下調査研究員出席)、平成2年度調査打合せ(公団・文化課・センター)(長)

28 教育研修(於更級農業高校)、長野電鉄との協議(文化課・センター・長野電鉄)(長)

3. 5 松原遺跡調査再開、沼津市教委石川治夫氏来所(長)、平成2年度埋文調査打合せ(於東京、公団・文化課・センター)(佐)

6 平成2年度調査打合せ会議(公団・文化課・センター)(長)、興水・広瀬調査研究員奈文研研修(～23日)

8 明治大学大塚初重教授招へい指導「東日本における積石塚古墳の諸問題」

9 平成2年度埋文調査調整会議(公団・高速道局・長野高速道事務所(文化課・センター)(於長野市)、奈文研宮本長二郎建造物室長招へい指導、「石川・川田条里遺跡出土の建築材について」(長)

14 若穂農協との打合せ(若穂農協・センター)(長)

16 松塩筑調査事務所閉所式(松)

19 文化課・センター懇談会(於センター)